

7月27日(土曜日)午前10時から12時まで、県立広島大学1212・1215会議室にてセンター主催によるHbpMSセミナー2019 遠藤邦夫公開講座②『経営の目で病院を内側から診る』を開催いたしました。

今回は、病院経営に関心のある医療介護関係の機関や企業の方々を中心におよそ約50名が集いました。そして、開演にあたりセンター長から当センターの紹介と今回のセミナーの趣旨説明を行なった後、遠藤邦夫HBMS教授から講師の八島利昌氏(医療法人社団誠馨会常務理事、法人本部長)のご紹介がありました。

八島氏は、警備保障会社セコムが理念として掲げる「社会システム産業への貢献」において、医療事業分野の国内外の医療機関等の経営にさまざまな形で携わってこられました。

講演では、まず、2012年にセコム社がインドで立ち上げた病院「SAKRA WORLD HOSPITAL」のプロジェクト責任者を務められた経験をもとに、インド医療を取り巻く環境や病院の組織体制、病院経営の安定化に向けた取り組みが紹介されました。

診療、看護の質向上には、日本における病院医療での経験や技術の伝達から、きめ細やかな医療提供体制を整備することで、QOL(Quality Of Life)と経営を連動させた改善実績を説明されました。

続いて、誠馨会グループとしての複数病院の経営体制が紹介され、医療法人の経営安定力や主要経営指標から、経営改善にはグループ全体での人材育成のプログラムを意識した横展開が重要であることを示唆されました。

最後に、日本での病院経営のノウハウを生かした海外での病院事業展開について紹介されました。海外事業の展開には、「人材」「執行/運営」「経営」の3つの視点で戦略的な運用を調整する必要があり、立ち上げから安定までの取り組みと課題に対する対応策を示されました。

講義の後のディスカッションでは、日本と海外での組織体制の違いから、経営戦略に対する医療従事者とのコミュニケーションの方法や病院事業のコスト管理の実際などについて活発な議論が行われ、時間一杯となって講演を終了いたしました。



